

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム 木かげ		
所在地	千葉県緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	平成24年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。地域の方との交流を大切に、顔見知りの関係を築けていると思います。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんからも「木かげで良かった」と言って頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流に努めており、ホームが発行している新聞がボランティアの応募や見学につながっている。また、入居者が近隣の自治会館で行われる合唱、ストレッチ等に参加することで、自然に地域に溶け込んでいる。お互い様という気持ちを大切にしており、雪が降った時は、管理者が近所の独居高齢者の家の雪かきをして喜ばれた。管理者と職員間の風通しはよく、経営者も意見や提案に耳を傾けており、職員休憩室の設置や畑仕事にボランティアがほしいという提案はすぐに反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フラダンス・尺八等のボランティアの方との交流や、近所のコンビニへの買い物を実践している。	シンプルで親しみやすい理念「笑う門には福来る」を実践するために、先ず「職員の方から笑顔で」を職場内に徹底している。入居者にも職員の気持ちが伝わっていることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方への挨拶や、散歩など、自分から外に出られたり、出たいと言える入居者さんに関しては出来ているが、スタッフから誘うケースは少なく、また頻度も不足している。	ホームが発行している新聞が、ボランティアの応募や見学につながっている。近隣の自治会館で行われる合唱・ストレッチ・手工芸講座等にも参加し、地域との交流を計っている。「お互い様」という気持ちを大切にしており、雪が降った時は、管理者が近所の独居高齢者宅の雪かきをした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が、認知症についての講演会を、民生委員の方の紹介で行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っている。	民生委員の参加があり、ボランティア派遣にも力を借っている。会議は2ヶ月に1度定期的に行っており、市町村には呼びかけをしているものの、なかなか参加が得られない。	ホームのイベントには多数の家族が参加しているが、運営推進会議への出席は少ないように思われる。市町村への参加依頼継続とともに家族にも出席を促していくと良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者(ホーム長・主任)が行っている。現場のスタッフは、あまり関わっていない。	日常の疑問や質問事項は、概ね電話でやりとりしている。市の担当課には直接訪問もして、協力関係を築いている。またホームを理解してもらうためにホーム新聞も送っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、非常口以外の出入り口は全て開錠している。職員の取り組み方については、講習への参加や勉強会を行い、意識共有を図っている。	身体拘束については、日頃から、言葉や行いが拘束に該当しないか、その場で確認を行っている。特に言葉遣いでは、決め付けた表現にならない様に気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、意識共有を図っている。また、スタッフ間で、お互いに気をつけあっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、機会を作れておらず、出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長・主任が話の場を設け、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。また、入居者さんやご家族さんには、その都度話を伺っている。	管理者は、よい事だけでなく、悪いことも言ってほしい、それが宝になるという考えを家族などに伝えられている。昨年目標達成計画にあげた「どのように改善したか知ってもらう」取組みについては、改善報告書を玄関に掲示することとした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から管理者へ、管理者から代表者へ、という形で話が動くことが多い。職員から管理者へは、話しやすい環境である。	管理者と職員間の風通しはよく、経営者も意見や提案は良く聞いてくれる。職員休憩室の設置や畑仕事にボランティアがほしいという提案はすぐに反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価は、ホーム長・主任が行っている。環境整備についても、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を作り、力量の向上を勧めている。また、職員間での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部同業者との交流機会は、研修の際程度である。職員の近隣の同業者との交流は、あまり多くない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、何でも話せる関係作りに努め、直接ご本人から伺っている。また、ご本人の生活状況から、困っていることを察せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に直接お話ししたり、電話にて伺う・または意見をいただいている。ケース会議を行う前は、要望をいただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、一ヶ月程度様子を見ながら、基本的なケアプランを作成している。また、細かい調整については、実際に接しながら、管理者に相談し、現場で行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務の中で、日常会話をし、人と人同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子は、一ヶ月に一度手紙でお知らせしている。変化があれば、電話にて知らせしている。また、年二回はご家族参加のイベントを催し、共に過ごす機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話として、故郷の話題を出させて頂くことはあるが、実際に行ったり、人に会ったり等はほぼ実現できていない。	以前働いていた職場の友人が訪れたり、近所の人が電話をかけてくれることもある。昔の知り合いが果物を送ってきたりする場合は、お礼の電話をかける支援をしている。中には2週間に1回程度の外泊で家族や友人との親交を図る人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で会話をさせていただいたり、職員が間に入ることで、入居者さん同士の関わりを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員としては、あまり出来ていない。終身利用であったり、移動先の施設に任せたりと、必要の無いケースが多いこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接ご本人に伺い、ケアプランに反映している。伺うのが困難な場合は、日常会話・生活の様子から察したり、ご家族さんに相談したりもしている。	必ず目を合わせて話を聞くようにしている。言葉で表現できない場合も表情を見たり、これまでの生活歴から好きなものなどを把握するようにし、職員間の申し送りでも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はご本人のファイルに入れ、職員間の共有を行っている。また、自室に持ち込める危険の無い馴染みの品は、居室に置いていただけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの作成により、職員間の共有を行っている。細かい変化については、その都度職員間で話し合い、把握・共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を行い、ご本人・ご家族の要望、職員の意見を取り入れ、共有・改善に努めている。	家族を含めたケース会議は3ヶ月から6ヶ月に1回開催が原則だが、状況に応じて随時開いている。モニタリングでは、職員がどこまでケアプランに沿ったサービスを提供できているかを含め、細かく確認しあっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は毎日行っている。いつもと違うことについては目立つように赤字にしたり、場合によっては個別で対応ノートを作成し、共有・改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に話を聞く、ご家族さんに意見を聞くなどしながら、可能な限り対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティアの方が来てくださり、演奏や踊りなどで入居者さんに楽しんでいただいている。また、訪問歯科・訪問美容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族さんの希望を大切に、一ヶ月に一度の定期受診にて日常変化の報告・相談を行っている。また、大きな変化があればすぐに受診できるようにしている。	ホームの協力医をかかりつけ医としている入居者がほとんどだが、専門医については、できるだけ家族の協力のもと、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に、受診の際に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメントシートや引継ぎに必要な書類の作成、また、直接病院関係者に話をするなどで、情報を伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、ご家族・かかりつけ医とも相談し、対応を決定している。現在入居されている方に関しては、まだ具体的な話し合いは行っていない。	段階ごとに家族や医師と話し合いながら、方針を決めている。最後まで看取った人については、医師、管理者、家族で話し合い、連携しながら支えた。職員も「病院の白い壁を見ながらの最後にはしたくない」との思いを持ったとのことである。その間、入居者も体をさすったりして関わり、最後のお別れもした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルによる意識共有、頻度を高めに勉強会で取り上げたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により、定期的に避難訓練を実施している。	昨年の震災後は備蓄についても、水やレトルト食品などの他にラジオや懐中電灯も補充した。	訓練には当日参加できる職員が参加している。定期的に開催しているので、全職員が必ず訓練を受けることができるようにし、近隣施設なども協力体制を構築していくとよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格に合わせた声掛けの仕方を努めている。職員間でも注意できるようにしている。	言葉遣いについては、子供に話すようにならないようにと注意している。個人情報については事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選べる時・選べる方には自由に選んでいたできるように努めている。まずはご本人に希望を伺うことで、自己決定を促している。言葉に出来ない方は、視線などから察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで過ごせるように気をつけている。共同生活として必要のある時は、待っていただいたりもする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアを行ったり、時々マニキュアやお化粧品など行っていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・片付けなど、出来る方にはしていただいている。食器を下げられない方にはお皿拭きやテーブル拭きなどお願いすることもあるが、テキパキ動ける方中心になりがちになってしまっている。	外部から調理師が来て食事を作っているが、その分、職員が入居者に時間を使うようにしている。また、食卓の準備や後片付けなどには入居者も参加している。時には外食に出かけたり、行けない人にはお寿司を買ってくるなど、いつもと違う楽しみも支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表による水分摂取量の情報共有・好みの品を勧めるなどで、必要な水分量を確保できるようにしている。食事は、ご本人の状態に応じて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨き・うがいの声掛けを行い、出来る方にはご自身で行って頂いている。必要に応じては手伝ったり、出来ない場合はお茶を飲んでいただいたりして、口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の様子を見て、行きたそうな時に誘導したり、時間を見て誘導したりしている。出来るだけトイレにて対応するようにしている。排泄パターンについては未だ共有しきれていない面もあり、改善を試みている。	一人ひとりに合わせて時間で誘導したり、表情や様子で声掛けをしたり、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・乳酸菌飲料の摂取や腹部ホットマッサージ・の字マッサージの施行、必要に応じて下剤の内服で予防を行っている。体操や運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間に二日の入浴を目安に、職員都合になってしまう時はある。ご本人の入浴希望がある時は、出来るだけ対応している。曜日は決めていないが、時間帯は職員の人数が確保できる時間帯中心となっている。	入浴の時間は職員と入居者が一対一で話せる機会として大切にしている。希望にそって、毎日入浴している人、職員の子供がよく遊びに来ており、一緒に入ることを楽しみにしている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の意思に沿っての手伝いや、夏冬の温度調節など、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自で説明書を読んだり、勉強会の議題になっている。内服ミスが無いようにマニュアルを作成している。新しい薬が出た際は、変化を細かく観察し、記録に残すことで共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人・ご家族より伺った生活歴を会話に取り入れたり、出来ることをしていただいたりしている。イベントごとの際は、嗜好品を出したりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベント企画による外出をしているが、頻度的には、ご家族さんと共の外出や、定期受診以外にはあまり外出できていない。	近くの店やコンビニエンスストアに買い物に出かけている。地区のお祭りに行ったり、時にはイベントで電車に乗って出かけることもある。また、家族にも協力を依頼し、いろいろな場所に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方はご自分での所持はしていない。外出時は、出来るだけ好きなものを買っていただけるようにはしているが、スタッフが立て替えての支払いになることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族よりかかってきた時は、ご本人と話ができるようにはしている。ご本人からに関しては、希望時に可能であればしているが、殆ど出来ていない。スタッフからの働きかけも、あまりできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節、カーテン・電灯による光の調整など行っている。リビングに季節の花を飾り、季節感を出している。	明るい共用空間は庭に面して大きな窓があり、季節を感じる事ができる。入居者はテレビを囲むように配置されたソファで寛いだり、テーブルでおしゃべりするなど、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、思い思いの場所で過ごしていただいたり、仲のいい人同士で話していただいたりして、その方の居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたもの、馴染みのものなどを、入居時に持ってきていただいたり、必要に応じて持ってきて頂いたり購入させていただき、居心地良い居室作りに努めている。	仏壇や人形、鏡台、本棚いっぱいの本を持ち込むなど、一人ひとりの趣味や思いの感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札を作り、必要ならば案内を行っている。浴室にはのれんをかけ、わかりやすいようにしている。		